

# 【リサイクルボックスを設置するとゴミ問題に対する意識はどう変化するか】【人文社会科学13】

(高)岡山県立高梁高等学校 2年次 三上來芽・小松歌・井上沙穂・岡野ひなた

## 1. 背景・目的

高校生のごみ問題への意識を高めるために、身近な使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収することにした。

## 2. 実験・調査

12 つかも資源は つかう量に 比例して減る

▶「アイシティ ecoプロジェクト」について

空ケースはゴミとして燃やさないことで CO2削減に貢献。再製品化することで、限りある資源を大切に使う事ができる



障がい者自立就労支援

リサイクル工場

日本アイバング協会へ寄付

リサイクル製品として再生

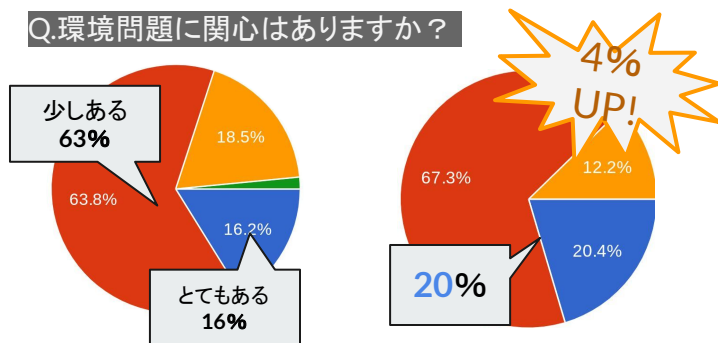
▶校内にコンタクトケースのリサイクルボックスを設置

▶ケース回収前と後でアンケート調査

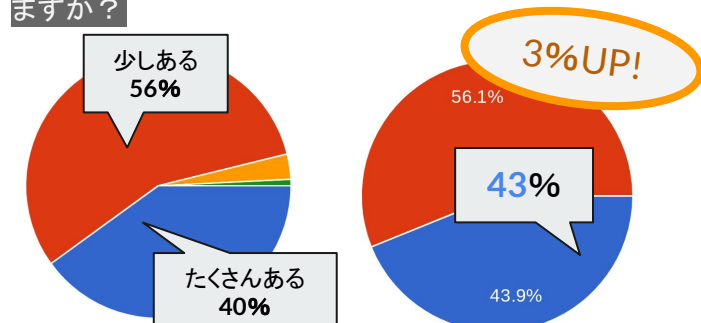
↳ 高校生のゴミ問題への意識の変化を確認

## 3. 結果

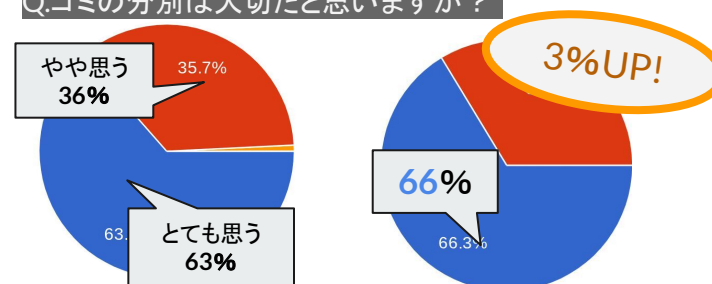
Q.環境問題に関心はありますか？



Q.ゴミを減らすために自分にできることはあると思いますか？



Q.ゴミの分別は大切だと思いますか？



## 4. 考察

1200個のコンタクトケース

⇨ 約1.2kgのポリプロピレン



## 5. 結論と展望

### 結論

・リサイクルボックスの設置は高校生のゴミ問題に対する意識をわずかにだが、**高める効果がある**ことがわかった。数値としては小さい変化だったが、環境問題を「**自分にも関係あること**」として考える生徒が増えた点は重要である。



継続的な活動や情報発信を組み合わせることで、より大きな意識の変化が期待できる。  
日常の中に環境配慮行動を取り入れることで自然と意識向上につながる。

### 展望

・高梁高校内だけでなく、地域や他校とも連携し、活動を拡大させる

・その他のリサイクル対象製品の回収などにも取り組んでいく

・環境問題の学習やSDGsの授業とリンクさせると理解が深まる

## 6. 参考文献

<https://www.eyecity.jp/>